

北海道と五輪 パラリンピック

第1部
担う 支える
④

公平に安全に 裏方で光る職人技

十勝管内足寄町の中心部から東へ3キロ。卓球台の大手メーカー三英の、木の香りに満ちた北海道工場に板がずらりと並んでいた。緑がかった深い青。東京五輪・パラリンピックで使われる「MOTIF」(モティフ)の天板だ。

「板は反る。どこまで抑えられるかが一番のポイント。吉沢今朝男工場長(51)は教えてくれた。卓球台は縦2・74メートル、横1・525メートルの板を厚さ25ミリまで9層に重ねる。天板の反りは国際基準で3センチまで認められるが、北海道工場が生み出す台は1センチあるか、ないかの精度だ。



三英北海道工場で生産されるMOTIF。吉沢今朝男工場長は「世界のお手本になってほしい」と話す(村本典之撮影)

木材は生きている。加工してからも湿気を吸ってゆがむため、軟らかさや木目の個性を見極め、反りを抑える木の組み合わせを導き出す。供給量が安定している輸入材を使っているが、加工は足寄でなければならぬ。湿度が低く、熟練の職人技が継承されてきた。天板の塗装にも高い技術が求められる。アスリートの戦うスタイルで球の弾みに差が生じないように回転とスピード、どちらにも公平に作用する摩擦力を計算し



東京と卓球(Table Tennis)の頭文字「T」を象徴した「MOTIF」

て塗料を配合し、均一に塗る。アスリートたちに使う。成度を高めている。

1989年に千葉県流山市の本社から生産機能を移した。足寄産の卓球台が五輪で採用されるのは、92年バルセロナ、2016年リオデジャネイロの両大会に続いて3大会目。リオで苦小牧市出身の丹羽孝(スウェーデン)が男子団体、銀メダルを手にした

年が明け、MOTIFの製造は本格化する。東京五輪代表に決まった丹羽は、北海道の技の粋を集めた卓球台メダルを狙う。

北海道が舞台の競技でも地元の技術と経験が力を発揮しよう。マフロンと競歩では、ギリシャ神話の英雄の名前にあやかる「ヘラクレス」が、沿道でならみまを利かすかもしれない。車道の突入を防ぐ金属製のバリケードで、底部の専用ゴムが地面と強力な摩擦を生み、時速60キロで向かってくる車両を止める。重さや大きさに頼る従来品とは異なり、止めてからの突破

も許さないという。警備用品製造のトライ・ユーと白石ゴム製作所が道立総合研究機構工業試験場(いずれも札幌市)などで協力して昨年開発し、6月の「YOSAKOI」でも採用された。テロ対策は現代五輪の重点課題で、東京大会では要人が宿泊する東京都内の高級ホテルがヘラクレスに関する心を示している。北海道で生まれた技術で五輪の安全を守りたい。トライ・ユーの上杉章社長(40)は「英雄」の改良に余念がない。サッカー次リーグ会場の札幌ドームは昨年10月、傷んだ芝に人工光を照らし、成長を促す「グロウライト」を新たに3台導入し、

使いは始めた。可搬式で、電源工事などを合わせた整備費は6363万円になる。

米、イラン司令官殺害

強硬策見えぬ勝算

トランプ米大統領がイラン精鋭部隊の司令官殺害に踏み切った。対イラン政策で手詰まり感が強まる中、年明け早々、大統領選に向け「観戦」をアピールしたが、米国内では中東の米関連施設を狙った報復を恐れる声も噴出。イラン側は「容赦ない報復」を予告し、米国の勝算は見えない。イランの被爆が拡大し、外交・安全保障の政策で失敗の烙印を押されるリスクと背中合わせだ。(一面参照)



3日、イランの首都テヘランで開かれた、ソレイマニ司令官殺害に対するデモで星条旗を燃やす人々(A・P=共同)

トランプ氏「戦果」誇る 国内は報復予告に恐ろ

年急襲作戦で過激派組織「イスラム国」(IS)の指導者バグダディ容疑者を自爆に追い込んだことに並ぶ成果だと誇ってみせた。だが米国内の関心は報復の可能性に向いている。中央情報局(CIA)のパネッタ元長官は「イランとの戦争のリスクが高まった」と断言。オバマ前大統領の安保担当副補佐官だったベン・ロース氏は「イランはあちこちで報復に出るだろう。中東にいる全ての米国人が心配だ」と危ぶむ。イランのランパチ国連大使はCNNテレビのインタビュで「司令官殺害はア



十勝農試などが普及を目指す大豆の新品種「とよまどか」(井上洋明撮影)

十勝農試などが普及を目指す大豆の新品種「とよまどか」(井上洋明撮影)

豆腐用大豆「とよまどか」普及へ

【芽室】道立総合研究機構十勝農試(十勝管内芽室町)などは豆腐に適した大豆の新品種「とよまどか」を開発し、今年から普及を本格化させる。従来品種に比べて固まらず、甘みが強い上、耐冷性に優れているのが特長。十勝管内やオホーツク管内など道内の大豆主産地で2022

寒さに強く食味よし

年までに5千枚の作付けを目指す。道産大豆の現在の主力品種は「ユキホマレ」。豆腐をはじめ幅広い用途に利用されているが、低温下では実が裂けやすく、豆腐に加工する際にヨ糖含有率がユキホマレに及ばなかったため、豆腐メーカーなどから新たな品種の開発を求めた声が出ていた。新品種のとよまどかは、十勝農試が中農試や公益財団法人とから財団(帯広)などとともに14年から開発に着手し、18年に道の優良品種に認定された。豆腐メーカーから

知識はやがて素晴らしい知恵となる

大

人生の基礎

「千里の行は一步から始まる。間にのみ、千里に至るの策の後、日に新たな自己自身

眠れなくなるほど面白い

糖質

「糖質制限」を図解でいち

食べないダイエットから卒業 糖質オフこそ、たんぱく質がカギ!!

たんぱく質

大反響!! 発売たちまち重版!!

立命館大学スポーツ健康科学部教授 藤田 聡